

①要約：

このアイデアは、認知症患者の徘徊問題に対応するために開発されたハードウェアデバイスであり、低電力消費と多機能性を特徴としています。デバイスは、センサーや位置検出機能を組み込み、機械学習によって患者の状態を監視し、家族や介護者に通知する役割を果たします。

②目的：

このアイデアの目的は、認知症患者の徘徊行動による安全リスクを軽減し、患者の居場所や状態を正確に把握することです。ハードウェアデバイスを装着することで、患者の活動データや生体情報を収集し、AI による解析や予測を行い、必要な情報を家族や介護者に提供することが目指されています。

③新規性：

このアイデアは、認知症患者の徘徊問題に対する特定のニーズに応えるために開発された新しいアプローチです。低電力消費や多機能性を持つハードウェアデバイスを介して、センサーや位置検出機能を活用し、特定の状態を判断し通知する仕組みが導入されています。

④独自性：

このアイデアの独自性は、患者の位置情報や生体情報をリアルタイムにモニタリングするために、低電力通信や GPS、Bluetooth ビーコンなど、さまざまな技術を組み合わせて活用している点にあります。また、デバイス自体の形状や機能も、従来のウェアラブルデバイスとは異なり、認知症患者の特定のニーズに合わせて設計されています。

⑤経済価値：

このアイデアの経済価値は、認知症患者の徘徊による事故や紛失のリスクを軽減することで、家族や介護者の負担を軽減する点にあります。また、徘徊行動の早期検知や適切な対応により、医療費や介護費の削減にもつながる可能性があります。さらに、このハードウェアデバイスは、認知症患者向けの専用商品であり、市場において一定の需要が見込まれます。